

未来への遺産

山口県 萩〜日本を代表する近世の城下町〜



萩城城下町（江戸屋横町）

萩は、今から約四百年前、山口県北部の日本海に面して築かれた近世の城下町です。
慶長五年（一六〇〇年）、関ヶ原の戦いに敗れ、領地を周防・長門の二ヶ国に減じられた毛利輝元は、慶長九年（一六〇四年）、萩に城地を定め、城下町の建設に着手しました。



松下村塾

から守られ、大きな変化を受けることなく保持・継承されています。
また、萩を紹介する上で、欠くことのできないのが、明治維新とのかかわりです。
維新の志士を数多く輩出したことで知られる吉田松陰が主宰した松下村塾や、木戸孝允旧宅

萩の城下町は、二つの河川に囲まれた三角州内に、城郭・武家地・町人地・寺社地、街路・水路が計画的に配置された典型的な近世の城下町です。幕末に藩庁を現在の山口市に移転したことにより、この基本的な構造が近代以降も開発

萩反射炉



や高杉晋作生誕地、また伊藤博文旧宅など、維新の原動力となった若き志士のゆかりの史跡や建造物が今も数多く残っています。また、幕末の対外危機に対し、藩独自に大砲製造を試みた萩反射炉や、実際に洋式軍艦を建造した恵美須ヶ鼻造船所跡など、現在、「九州・山口の近代化産業遺産群」として、関係県市とともに世界遺産登録に向けた取組みを進めている遺産もあります。

さらに、このような有形の遺産だけでなく、萩焼や住吉祭に代表される祭礼など、数多くの無形の遺産も現在まで絶えることなく継承されています。

現在、萩ではこのような有形・無形の遺産を市民とともに保存・活用していくため、平成十六年（二〇〇四年）四月に萩まちじゅう博物館条例を施行、同年十一月に取組みの拠点として萩博物館を開館するなど、市民と協働してこれら遺産の保存・活用に取り組んでいます。

お問い合わせ

山口県教育庁社会教育・文化財課
TEL 〇八三一九三三―四六六六